

(様式1)

令和3年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
校長 田鶴 直人

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 生徒の人格の形成を目指し、人間力を高める。
- (2) 高等教育を通して、新しい時代に適応できる資質・能力を持った生徒を育成する。
- (3) ものづくりの基礎基本を身につけ、創造性豊かな生徒を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 生徒の主体的・協働的な学びを支援し、思考力・判断力・表現力の育成に努めるため、繋がりのある学習指導を行うとともに、その学習の成果を的確に評価する。
- (2) キャリア教育の充実により、規範意識の高い生徒を育成するとともに、急速な社会変化にも対応出来る生徒を育て、個々の希望や適性に応じた進路の実現を図る。
- (3) 学校行事や部活動、ものづくりや資格取得などの支援を意欲的に行い、自己肯定感や自己有用感を高め 活力ある生徒を育てる。
- (4) 教職員が相互に業務を「整理」・「整頓」し、教育活動の質を落とすことなく組織的で効率的な業務の在り方を探る。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	① 自学の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、自学の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にすることで指導を行う。	【成果指標】 宿題や課題等に取り組み、自学時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	宿題や課題等に取り組み自学(授業以外で取り組む学習)を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A 6.3% B 26.8% C 43.0% D 23.9% (アンケート結果)	A+Bの結果が昨年度に比べるとわずか2%しか増えていない。自学を充実させるための手立ての工夫を行っていききたい。宿題や課題の出し方、示し方、また、資格取得に向けた自学を推進していききたい。
	② 朝学習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝学習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝学習や補習授業にしっかりと取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A 37.2% B 40.7% C 18.8% D 3.3% (アンケート結果)	A+Bの結果が昨年度に比べると6%減っている。朝学習では、ホーム担任及び教科担任と連携し、C+Dの生徒の取り組めない原因等を探り、解決していききたい。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	A 32.3% B 59.4% C 7.2% D 1.1% (アンケート結果)	A+Bの結果が91.7%であり、ほとんどの生徒が自分の学力に合った授業で学習に取り組んでいることが窺える。今後も個々の学力に応じた授業形態で学習効果を図っていききたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部・学年主任・担任・生徒・保護者による面談を行う。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒・保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒・保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A 12.3% B 63.1% C 23.1% D 1.5% (アンケート結果)	A+Bの結果が75.4%であり、昨年度と比べると4%減っている。成績システムから印刷できる資料は学習指導に活用できるので、教員への周知をもっと図っていききたい。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知・把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A 32.8% B 59.4% C 7.8% D 0.0% (アンケート結果)	A+Bの結果が92.2%であり、昨年度とほぼ同じ数値である。引き続き、グループウェアの掲示板での周知と朝礼での伝達と併せて行っていききたい。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	就職決定率 A 100%	ガイダンス内容などの充実を図りつつ進路指導計画に基づき進めた。生徒、保護者、学校(職員)が一丸となった取り組みが内定へと繋がる。
		【成果指標】 進学決定率	進学決定率が A 98%以上 B 95%以上98%未満 C 90%以上95%未満 D 上記以下	C、Dの場合は、取り組み方を再検討する。	A 100% 81人受験⇒79人第1志望先合格 (2人第1志望校結果待ち、第2志望先合格)	学年会との連携を取りながら、生徒からの相談をこまめに受け、対応をしてきた。今年度、共通テストを受験し、国公立大学希望者が数人いたことから、そのような生徒に対しての対応策を練る必要がある。
⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指標】 蔵書の充実と本の貸出冊数の増加を目指す。	一人当たりの貸出冊数が2.5冊を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	B ほぼ同じであった (2.24冊)	目標値を若干下回ったが、ほぼ同じであると判断される。新型コロナウイルス感染拡大、およびそれに伴う休校・学級閉鎖等が貸し出し冊数に影響を与えたと推測される。来年度は、図書委員の活動をさらに活発化させ、貸し出し冊数の増加を目指す。	

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
2 社会への対応力、及び人間力(規範意識、公共心、リーダーシップ等)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	C 12人	急な雨や、学校付近で小雨がぱらついてきたとの理由で、カッパのズボンを着ていない生徒が多かった。いかなる状況でも、すぐに着用できるように準備させ、時間に余裕をもって行動させることを更に指導していきたい。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	A 1人	今年度も引き続き換気指導で教員が教室にこまめに顔を出していたことなどもあり、違反者は一人だけであった。来年度以降も朝や昼の巡視を継続し、違反者が増えないようにしていきたい。また規範意識の向上も引き続き促していく。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B 平均1.17人	相変わらず生活習慣の乱れから遅刻する生徒が多く見られる。特定のクラスで遅刻数が多いため、担任とも連携をとっていききたい。引き続き遅刻時に話を聴き、時間を守ることの大切さを説いていきたい。今年度の3年生は、進路決定後も落ち着いて生活していた。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	A 62.4% B 33.8% C 3.5% D 0.3% (アンケート結果)	自ら挨拶する生徒が増え、声だけでなく、会釈をする生徒も増えてきた。さらにレベルを上げるために元気や気持ちの良さを意識して実施していきたい。
	⑤ いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 A. よくはてはまる B. まあまああてはまる C. あまりあてはまらない D. あてはまらない	C・Dの割合が30%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A 47.7% B 50.8% C 1.5% D 0.0% (アンケート結果)	いじめアンケートや面談を利用して、生徒の実態把握に努めるとともに、生徒の些細な変化にもこまめに声かけをしていく環境作りをしていく。また、生徒の情報共有しやすくするために、些細な事でも学年主任や生徒指導主事に情報が集まる体制を整えていく。
	⑥ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A 77.7% B 20.5% C 1.5% D 0.3% (アンケート結果)	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
	⑦ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A 0.0% B 72.7% C 26.0% D 1.3% (アンケート結果)	A、B合わせて50%を超えているが、Aが0%という結果は反省すべき点である。特に、教育相談室については、生徒が気軽に利用できるよう相談室だより等で様々な情報を提供できるようにしたい。
	⑧ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	【機械科】A 【電気科】A 【電子情報科】B 【建築科】B 【土木科】A	【電子情報科】 1年生のはんだ付け実習において、軽いやけどが2～3件あった。その原因には、作業中の整理整頓も含まれる。安全教育の一環として、KYT予知訓練などを取り入れる。工業実習における思考判断表現を育成する。 【建築科】 状況：3A女子生徒1名木材加工中に切傷。 要因：連続作業による集中力低下。 改善：適度な休憩を促す。

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
3 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A 運動部471、文化部211 計682 (95%)	高い加入率を維持している。
		【努力指標】 引き続き、高い1年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	本音では全員入部を目指したいと思う。
		【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	A バドミントン、水球、剣道、弓道、相撲、新体操、電気技術	左記以外の部活動も、規制がある中でよく頑張っていた。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A 50.5% B 0.0% C 39.7% D 9.8% (アンケート結果)	コロナで、活動中止になることがあり、試合直前で不参加になったことがあった。また、練習や遠征にも制限がかかり、十分な満足が得られなかったのではないかと。
	② 応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	高校相撲での会場で応援する人数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	Dの場合は、対策を検討する。	主催者からの意向で制限がかかり、60名程度の参加	有志応援団で臨んだ。スピーカーなどの設備を準備し、少ない人数でも盛大な応援であった。
		【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して A 大変実感できた B 実感できた C あまり実感できなかった D 全く実感できなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A	有志応援団は、3年生中心で愛校心にあふれていた。
	③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に A 主体的に取り組んだ。 B 少し主体的に取り組めた。 C あまり主体的に取り組めなかった。 D 主体的に取り組めなかった。	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A 0.2% B 55.1% C 0.0% D 44.7% (アンケート結果)	生徒は、この行事を楽しみにし、頑張っていたと思っていたが、この結果は意外であった。コロナで制限がかかっていたことは確かであり、また1年生は演目の変更などもあったためか、引き続き、自己肯定感、自己有用感を高める活動を積極的に取り入れていきたい。
④ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A 金沢マラソン役員ボランティア 126名参加	多くの生徒が協力してくれた。	
⑤ コロナ感染の影響がなくなり、集会等を行えた時に、校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A 6.4% B 40.3% C 33.9% D 19.4% (アンケート結果) B	全校集会が行われていない。校歌を歌う応援練習もほとんどできなかった。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指標】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	【機 械 科】A 【電 気 科】A 【電子情報科】C 【建 築 科】C 【土 木 科】B	【機 械 科】 全国ソーラーラジコンカーコンテスト4位 【電 気 科】 ジャパンマイコンカーラリー2022全国大会第4位。 過去の全国大会第3位から現在の指導体制を継続する。 ものづくりコンテスト(県大会優勝、北信越大会出場)は今後も学科内での指導体制の構築に務める。 【電子情報科】 ものづくりコンテスト電子回路組立部門・県大会2位であった。2年生は7位であったが、準備不足による結果であったので、実力は次年度期待できる。準備、練習段階から簡単なことを丁寧に行うよう改善していきたい。 【建 築 科】 ものづくりコンテスト木材加工部門・県大会3位 【土 木 科】 ものづくりコンテスト測量部門・北信越大会2位	

(様式2)

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など	
4	キャリア教育(インターンシップ、資格取得等)を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。	① 就業体験学習に積極的に参加し、進路選択に役立っている。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C, Dの場合は事後指導をしっかりと行い、次年度の事前学習について検討する。	A 81.4% B 16.3% C 2.3% D 0.0%	コロナ禍の中、急な変更や対応などあったが、企業の理解と協力があり実施できた。特に2年生は生徒・職員共に今回の本人及び企業評価をこれからの進路指導に役立てる。
		② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	B 60人以上80人未満	今年度のジュニアマイスター受賞者の数が61人であり、昨年度と比べて倍以上である。今後も受賞者が増えていくよう引き続き資格取得を促していきたい。